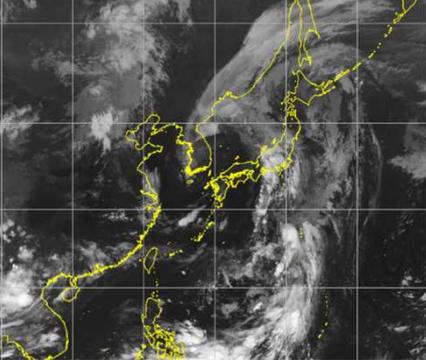


# 令和7年7月15日 低気圧に伴う降雨における防災操作の概要

- 徳山ダムのある東海地域では、日本海西部の低気圧の影響を受け暖かく湿った空気が、南東寄りの風により流れ込み大雨となりました。
- 徳山ダム流域では、7月14日の16時頃から雨が降り始め、流域平均総雨量は約90mmを観測しました。特に7月15日1時～2時の1時間で26.5mmの降雨を観測しました。
- この降雨の影響で、ダムへの流入量が増加し、洪水量(200m<sup>3</sup>/s)に達する出水となり、合計約57万m<sup>3</sup>の水を貯留しました。

7月15日03時 気象衛星赤外線画像



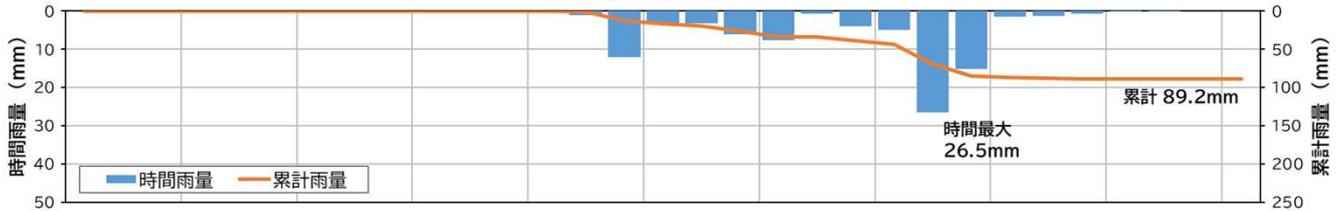
7月15日03時 天気図



7月15日03時 レーダ雨量



流域平均雨量



徳山ダムの状況



7月14日 9時 貯水位：EL. 389.46m



7月15日 9時 貯水位：EL. 389.77m



今回の一連の出水対応で  
貯水位は約30cm上昇